

|           |  |
|-----------|--|
| 学校目標・経営方針 | ◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成<br>◎広い視野をもち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成 |
|-----------|--|

山梨県立笛吹高等学校校長 若林 喜久男

|          |   |
|----------|---|
| 本年度の重点目標 | 1. 魅力ある授業の工夫をとおして、学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかる。 |
|          | 2. 日常的な教育活動をおとて、良好な人間関係と規範意識の醸成をはかる。    |
|          | 3. キャリア教育を推進し、各々の適性に応じた進路の実現をはかる。       |
|          | 4. 笛吹市との包括連携等を活かして、地域課題に取り組む意識と行動力を育てる。 |

|     |   |                 |
|-----|---|-----------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成できた。(8割以上)  |
|     | B | 概ね達成できた。(6割以上)  |
|     | C | 不十分である。(4割以上)   |
|     | D | 達成できなかった。(4割以下) |

|    |   |            |
|----|---|------------|
| 評価 | 4 | 良くできている。   |
|    | 3 | できている。     |
|    | 2 | あまりできていない。 |
|    | 1 | できていない。    |

| 自己評価 |  |   | 年度末評価(1月30日現在)  |     |   |
|------|--|---|---|-----|---|
| 番号   | 評価項目   | 具体的方策   | 自己評価結果  | 達成度 | 成果と次年度への課題・改善策  |
| 1    | 学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかり、魅力ある授業づくりに向けた授業改善の工夫          | 単元などをまとまりとした評価シートを作成し、授業を通して身につけた力を生徒に評価させ、学習方法の改善や学習意欲の向上を図る。また、それを授業改善や個に応じた指導に役立てる。<br>「やまなしスタンダード」7つの視点の実践に向け、相互授業参観等を通じ、教科を超えて学び合い、魅力ある授業づくりにチームとして取り組む。<br>個別面談や「今未来手帳」の活用を通じて、学習状況の把握に努め、生徒に学習目標を持たせ学習意欲を喚起する。 | ・授業の目標を明確にする取り組みは進んだが、評価シートを利用した振り返りの取り組みは教科や担当者により差があった。<br>・学習内容を活用する課題・発表に取り組ませる授業もあったが、主体的に対話的な学びの実践についての教員の自己評価は低かった。<br>・年2回の授業アンケートを実施し、全職員の結果をデータ化し、授業改善を促すことができた。<br>・相互授業参観等、他教科の授業を参観する機会があったが、積極的な姿勢での参観は少なかった。<br>・「今未来手帳」を利用した指導や活用事例の研修を3回実施した。二者懇談、三者懇談、部活動等での活用を生徒に促しているが、学習の記録等への記載が不十分である。                                     | B   | ・定期的な教員会議の実施を促し、評価シートの共有化や教員間での情報交換を活発にする。<br>・全教科科目でシラバスの見直しを行い、生徒へ配布し、HP上で公開する。<br>・授業内容を実生活に関連づけるなどして、生徒に興味関心を持たせ、活用・探究の場面を増やす。そのための教科内での授業研究を活発にしていこう。<br>・主体的に対話的な深い学びについては、教科の枠を超え校内での研修を進めていく。<br>・手帳の効果的な活用方法を共有することができた。今後は、生徒自身が効果があると感じている活用法を紹介させるなど、生徒に使い方を考えさせていく。各教科においても、手帳の活用方法を検討していく。<br>・学習機会の確保として、職員室前に質問コーナーを設置した。 |
| 2    | 良好な人間関係と規範意識の醸成を目指した、日常的な教育活動の工夫                   | 挨拶指導の徹底や言葉遣い・聞き方の指導を通じ、社会の中で良好な人間関係を作り上げるための基本的なマナーを身につけさせる。<br>学校行事・部活動・地域交流など、多くの人と関わり合い良好な人間関係を形成する場面を設ける。<br>教職員間の共通理解及び保護者との連携を図り、良好な人間関係と規範意識を醸成する。   | ・職員による登校指導と生徒会あいさつ運動をほぼ毎日実施、効果を上げている。<br>・学年集会やHR・授業等、部活動において、時間厳守、言葉遣い、人間関係構築等を指導し、高い評価を得ている。<br>・部活動が活発に行われている。地域交流を意識した活動では、すいれき太鼓部、吹奏楽部、書道部、ボランティア部を中心に地域行事への参加や野球部による週1回の学校周辺清掃活動などが実施されている。しかし、一部の生徒の活動にとどまっているため、地域交流については生徒の自己評価が低かった。<br>・毎週金曜日に管理職、分掌主任、学年主任で情報を共有している。さらに1月1日いじめ対策委員会を実施している。しかし、生徒・保護者からはいじめの未然防止や早期発見の取り組みへの評価が低かった。 | B   | ・挨拶、言葉遣い、聞き方等の基本マナーについては高い評価を得ているが、全教員が基本的マナーを生徒に身に付けさせる意識を持ち、その場で指導することが大切である。共通認識を持ち指導していく。<br>・地域交流やボランティア活動への参加を全校生徒に促す。また、そのための仕組み作りを検討していく。<br>・教員間の生徒情報の共有については、教科・分掌・学年の横のつながりや縦のつながりにおいて情報共有ができた。そのことにより、気がかりな生徒への対応を組織的に行うことができた。今後は、人間関係づくりのためのLHRの充実を進め、いじめの相談窓口等の周知により、生徒や保護者が相談しやすい環境を整えていく。                                |
| 3    | 各々の適性に応じた進路を実現するためのキャリア教育の実践                       | 「総合的な学習の時間」「LHR」「産業社会と人間」等を活用し、外部機関等と連携しながら効果的なキャリア教育を行う。<br>インターンシップやオープンキャンパス等を有効に活用し、社会の一員としての自己効力感を育て、将来の職業選択の基盤を作る。<br>土曜講座、長期休業課外、小論文講座、各種検定など生徒のニーズに応じた学習機会を設け、積極的な参加を促す。<br>生徒や保護者への情報提供を充実させ、進路意識や目的意識を高める。  | ・JICA、東証、中部横断自動車道工事現場などの訪問や外部講師による講義など、効果的なキャリア教育を実践できた。<br>・インターンシップでは、ガイダンスの内容を充実させることで、職業観を養うことができた。<br>・土曜講座1年21回、2年19回、3年18回、小論文講座11回を実施した。日程の一部が他の行事と重なってしまった。<br>・小論文講座については、指導対象学部を増やし対応したため、受講者には好評であった。<br>・就職活動情報を5回発行するなど、多岐にわたる生徒の進路希望に沿うように、紙媒体で情報提供に努めた。   | B   | ・総合的な学習の時間を3年間を見通した計画のもと、つながりを持たせ効果的な実施を検討していく。さらに、地域課題へ取り組むことで、キャリア教育を充実させていく。<br>・進路ガイダンスは、内容を検討し、より生徒の進路希望状況に沿うものになるように検討する。<br>・普通科の生徒を対象にしたインターンシップの実施を検討していく。<br>・普通科における課外学習や補習を検討し、個々の生徒に応じたきめ細かい学習指導を実施する。さらに、土曜講座等に多くの生徒が参加できるように日程を調整するとともに、内容を充実させていく。<br>・新入生が大学受験時には入学改革が始まる。今以上に、進路情報の収集と提供を充実させていく。                       |
| 4    | 具体的な学習の場面において、学んだことを積極的に生かし、他者と連携・協同しながら課題解決する力を育む | 地域の外部行事を積極的に伝達するとともに、その行事等の企画の段階から自主的に取り組み、社会参画の場面に工夫し、成就感や自信が持てる実践的な取り組みを行う。<br>ウエルカム笛吹・フェスタ笛吹の行事を通じ、地域社会の一員としての所属感や連帯感をさらに強く持てるよう育成する。  | ・フェスタ笛吹、ウエルカム笛吹、地域への植花活動(11月、2月)を通じて、保護者、生徒、地域の方々へ笛吹高校の活動を広くアピールすることができた。<br>・国際系列の生徒が市内の小学校で英語の連携授業に参加し、交流内容を企画実施した。また、山梨県地震防災訓練に生徒22名が救出救助訓練、炊き出し訓練、避難時外国人対応訓練に参加し地域の一員としての自覚を高めた。<br>・4月から現時点までに笛吹高校HPの笛吹高校日記を68回更新、笛吹部活日記を23回更新し情報発信に努めた。   | B   | ・フェスタ笛吹は地域の方や保護者から高い評価を得ている。普通科や総合学科においても、学んだことを地域の方に発表する場を設けるなど充実を図っていく。<br>・総合的な学習の時間を中心に地域課題に取り組む活動を充実させていく。<br>・本年度JGAP認定され、来年度は台湾への果樹販売に向けて準備を進めている。このことが生徒の学びの場となるように教育内容を検討していく。<br>・HPからの情報発信に向けた職員の協力体制を整える。さらに、保護者宛メールの送信回数を増し積極的な情報発信を行う。  |

| 学校関係者評価         |   |
|-----------------|---|
| 実施日(平成30年2月19日) |   |
| 評価              | 意見・要望等  |
| 4               | ・学習の目標の明確化や生徒の学習の悩みに相談するなど評価が上がりつつあることは大変良い。今年度、アンケートに新たに取り入れた教員間の授業参観が非常に少ない。専門的な内容になると思うが、一般的な授業論を語り合う場を大切にしなければならぬと感じる。<br>・目標及び振り返りの進捗を感じた。その一方で教員の時間の使い方について気になる。コンピュータの進歩で、昔よりも業務を効率的に行えるはずである。意識改革も含め業務の効率化にも努めて頂きたい。<br>・今未来手帳の具体的な活用例等の提示があるとコメントしやすい。<br>・今未来手帳については、導入の目的や活用方法が浸透するには時間が必要である。保護者も含めて手帳を活用することは大変だと思いが、学校が工夫して考え出したものなので、継続的な活用が望まれる。  |
| 4               | ・生活指導や部活動指導は概ね良好な結果である。教員の評価が昨年度より高くなり、それが生徒の評価を高めることに繋がっている。教員の一生懸命さが伝わってくる。<br>・部活動は、生徒・保護者の評価が高く、運動部・文化部ともに充実している。それに比べて、ボランティア活動がやや劣る。この部分は将来への影響も大きい。改善をお願いしたい。<br>・社会人になってからもボランティアを行っている人のほうが、生活の満足度が高い。若いうちには是非経験をして欲しい。<br>・いじめについては、生徒の満足度が少ない。情報交換や生徒からの聞き取りなど、様々な方法を検討してみることが必要である。<br>・いじめに関する項目で、教員と生徒の評価に差があることが気になる。生徒の立場に立った対応を宜しくお願いしたい。<br>・いじめアンケートを記名式にし、生徒と保護者が話をした上で記入する方法に変更した点は大きい評価できる。     |
| 3               | ・進路ガイダンスの評価では、生徒が何を希望しているか、それがガイダンスの目的と合っているか、インターンシップの内容と生徒の希望にズレがないか、これらについて検討する必要がある。<br>・インターンシップは人手不足を補うためのアルバイトでは意味がない。そのためには目的をしっかりと意識させることが必要である。職業選択には効果的にリンクしているので継続指導して頂きたい。<br>・目先の就職先のことだけでなく、生徒の人生観を形成することやサポートするような企画を考えて欲しい。<br>・総合学科は、キャリア教育を具体的に指導できる特色を持っている。今後、中学校との連携も進めながら、アピールしていくと良い。<br>・進路希望と結果のギャップを埋めるために生徒にどんな力を身に付けさせたいのか明らかにすることが必要である。その上で、課外や講座の目的と実施後の効果を洗い出し、多くの教員が関わり改善していく必要がある。 |
| 3               | ・フェスタ笛吹に参加させて頂いたが、地域と密着した大変活気に溢れるイベントであった。是非継続し、新たな企画も取り込んでいって欲しい。<br>・フェスタ笛吹の生徒・保護者の意識評価と職員の意識評価に差があることが気になった。検証が必要である。<br>・生徒の主体性が低いのではないかと、昨年度の経験を活かし改善するなどの継続性を持たせると良い。また、3年間連続して市と連携できれば変化が期待できる。<br>・一度出来上がったものを活性化し維持することは大変なことだと思うが、新しい取り組みを実現したり、高い目標を定めたりする中で、生徒の自主性を育て活気のある学校づくりをお願いしたい。   |